

事務事業評価シート(事後評価)

事業コード 5-2-4	事務事業名 老人憩いの家運営費	所管部課 福祉部高齢者支援課
----------------	--------------------	-------------------

事務事業の概要	事務事業の目的	根拠法令等
	高齢者の相互交流、教養の向上及びレクリエーション等の活動の場を提供することにより、高齢者の福祉の向上と健康の増進を図る。	<input type="checkbox"/> 法律 <input checked="" type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 要綱・要領
	事業内容・実施方法等／補助の概要：補助団体の概要（団体名・団体の活動内容・補助金の活用内容等）、補助金の概要（国・都基準の有無・対象者拡大の有無・上乗せ補助額・市単独補助額）等 ※該当する予算事業名・節目を明記する 市内在住で60歳以上の方の相互交流、教養の向上及びレクリエーション等の活動をするための場所（会議室、大広間、和室、調理室）を提供する。 建物の管理運営は、シルバー人材センターへの委託により実施している。 （予算事業名 03.01.06.02老人憩いの家運営費）	
事業開始時期	合併前	実施形態 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ( )

項目	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費(A)		5,642	7,963	5,858	6,517
財源内訳	千円				
国庫支出金・都支出金		0	0	0	0
地方債		0	0	0	0
その他 ( )		0	0	0	0
一般財源		5,642	7,963	5,858	6,517
所要人員(B)	人	0.08	0.08	0.08	0.08
人件費(C)=平均給与×(B)	千円	653	616	635	657
臨時職員賃金等(C')	千円	0	0	0	0
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	千円	6,295	8,579	6,493	7,174
単位当たりコスト					
(E)=(D)/ ( 施設の開館日数 )	千円	17	24	18	

活動等指標	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
① 開館日数	実績値 日	360	362	357	
②	実績値				
《指標の説明・数値変化の理由 など》 老人憩いの家が企画する事業はないため、開館日数とする。					
成果指標	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
一次 施設の利用者延べ人数	目標値				
	実績値 人	14,893	14,786	15,631	
二次	目標値				
	実績値				
《指標の説明・数値変化の理由 など》 老人憩いの家は、高齢者の相互交流、教養の向上及びレクリエーション等の活動の場を提供するため、利用者数とする。					

事業環境等	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	高齢者保健福祉計画の策定に先立ち行ったアンケート調査の中で、「生きがい」に関し尋ねたところ、福祉会館等の充実及び生きがい活動の充実に関し高齢者からの期待が大きい。	
	都内26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	<input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 下	老人憩いの家の設置状況(平成24年度実績) 都内13市にあり、多くは福祉会館と同様のサービスを提供している。
	代替・類似サービスの有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	福祉会館、老人福祉センター

**【一次評価】**

検証項目		ランク	一次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等
A	事業の優先度(緊急性)	2	継続実施	老人憩いの家は、福祉会館と同様に高齢者の相互交流、教養の向上及びレクリエーション等の活動の場を提供することにより、高齢者の福祉の向上と健康の増進を図ることが目的となっている。今後も高齢者人口が増加の一途のため、利用者も増えることが予想される。また、周辺地域には同様の施設がないため、事業の継続は必要である。 現在の利用状況は、部屋貸しということもあり利用者が固定化しているが、最近では市の介護予防事業の開催場所としても利用している。 施設の運営については、部屋貸しのみであるためシルバー人材センターに委託している。(ローテーションによる1名勤務) 施設使用料は無料となっているが、今後建物の経年劣化による設備更新などの財政負担が課題である。
	事業の必要性	2		
	事業主体の妥当性	1		
B	直接のサービスの相手方	1		
	事業内容等の適切さ	3		
	受益者負担の適切さ	1		
C	市民ニーズの把握	2		

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

**【二次評価】**

検証項目		ランク	二次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等
A	事業の優先度(緊急性)	2	抜本的見直し	福祉会館及び老人福祉センターと同様に、高齢者の交流やレクリエーション等の活動を目的とした施設であるが、事業の内容が部屋貸しのみで、各種教室や講座等の事業が行われていない点が他の2種類の施設と大きく異なる点となっている。 利用状況を見ると、施設の稼働率自体は高いものの、一方では利用者が固定化傾向にあることが課題と考えられる。そのため、今後は高齢者人口の増加と介護予防事業の推進への対応を図り、より多くの高齢者による施設利用を促進するためにも、他の施設と同様に、生きがいづくりや健康づくりにつながる各種事業の実施を検討すべきである。 事業の実施に当たっては、他の施設に比べて狭小な面積や新たな財政負担の発生が課題となるが、施設の現状に合ったスポット的な事業の実施や、施設系事業全体の運営を効率化することなどで必要な財源を捻出し、地域における総合的な介護予防事業の推進を図りたい。
	事業の必要性	2		
	事業主体の妥当性	2		
B	直接のサービスの相手方	1		
	事業内容等の適切さ	1		
	受益者負担の適切さ	1		
C	市民ニーズの把握	2		

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

**【外部評価】**

外部評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
対象外	

**【行革本部評価】**

行革本部評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
抜本的見直し	老人憩いの家は、事業目的や求められる施設機能は福祉会館と同様であるが、事業内容が部屋貸しに限られている点が他の2種類施設と大きく異なる。しかしながら、高齢者人口の増加や地域包括ケアシステムにおける介護予防事業への対応を考えると、部屋貸しのみという事業内容のあり方は、早急に見直されるべきである。 二次評価における指摘のとおり、他の2種類の事業と同様、生きがいづくりや健康づくりにつながる事業の実施を検討し、その際課題となる新たな財政負担については、他の2種類の施設と併せて検討する指定管理者等の民間活力の導入などに伴う効率化等により財源を捻出するなど、地域包括ケアシステムにおける介護予防事業を推進するため、抜本的な見直しを図りたい。

**【改善の方向性・スケジュールと改善実施にあたっての課題】**

改善の方向性・スケジュール	施設の運営形態の見直しを検討する。 平成27年度:健康づくりにつながる講座、介護予防事業を実施する。また、運営体制の見直しについての方法を具体的に検討する。 平成28年度:運営体制の見直しについての検討結果を踏まえた準備行為を進める。 平成29年度:新たな運営体制を実施する。
---------------	---